

テーマ

「物盗られ妄想のある本人と、それに翻弄される家族への支援について」

○地域での事例を基に、本人が現状の生活力を維持しながら、住み慣れた地域で過ごすための課題と、どんな支援ができるかについて意見交換を行った。

1グループ 「1人でいられない」

○まずは、息子が緊急入院した夜、本人がどうなるかが喫緊の課題。ショートステイなどの利用や、隣の弟に協力をお願いする。

長期的な視点としては、本人が今の家で1人で暮らすのか、息子さんの意向も確認しながら、もし在宅なら、ヘルパーなどの訪問系サービスを導入することを検討する。

2グループ「息子さんの入院期間中の生活支援をする（息子さんのためにも）」

○息子さんの入院の事実を本人が認識すると、かなり混乱すると予想される。

本人のこれまでの性格から、他人が家に入ってくるサービスを導入するのは難しいと思われる。ショートステイやデイサービスを活用しながら、そして隣の弟に安否確認や金銭管理をお願いしながら、今の家で1人で暮らす生活を支える体制をつくる。また、安否確認のご協力を民生委員にもお願いしていく。

3グループ「Aさんのライフラインの確認・確保」

○Aさんのライフラインや生活を確保することが第1と考える。弟を中心に支援体制をつくる。その一環として介護保険サービスの緊急ショートなどを利用する。

4グループ「支援者をつくる」

○本人の支援者をつくる。とにかく息子以外のキーパーソンをつくる。

自治会などの近隣の力を借りて、見守り体制をつくる。本人の意向を確認し、在宅希望であれば、ヘルパーなどの導入や、ショートステイを活用していく。

6グループ「日常生活支援、見守り、病状の悪化、金銭管理、精神的支援」

○現状の課題として、日常生活支援、見守り、金銭管理、本人の病状の悪化の4つに分けた。これまでの本人の言動等から、施設よりかは自宅で暮らし続けることをイメージした方がよいと考えた。ヘルパーや訪看を入れながら支援体制作りを行う。見守りや金銭管理については、民生委員や弟、いどこに協力を求める。

7グループ「住み慣れた環境で生活できる」

○住み慣れた環境で安心して暮らし続けることを課題とした。

そのための支援策としてキーパーソンを見つけること、そのためには、いとかや弟に協力を求める。介護保険のサービスを導入すること、その他、民生委員やなじみの店、小多機などの地域支援の活用を検討する。

8グループ「見守り、金銭管理」

○食事や火の始末、金銭管理に課題があると考えた。

支援するためには、弟やいとかからどこまで協力してもらえるか、見守りの協力者として自治会や民生委員、近隣の店を考えたい。

9グループ「在宅で暮らしていく」

○在宅で暮らしていくのが一番本人が居やすいと考えた。

今本人が持っている機能を保つことが重要。そのために必要なサービスの導入などについては、本人にとって信頼のある人から話していただくのが入りやすい。例えば、通院している医療機関の主治医、なじみのお店の米屋さんなど。

10グループ「1人で安全に暮らす」

○1人で安全に暮らすためにどうしたらよいか。

金銭管理、貴重品の管理や安否確認がまずは課題。アセスメントの1つとして本人に鍵をさりげなく置いておき、施錠が出来るか試してみるのもあり。見守りは、民生委員や親戚などをお願いしていく。